



Odawara International Friendship Association

小田原海外市民交流会

35th

市民訪問団 旅の思い出

小田原市&チュラビスタ市 姉妹都市提携35周年記念

Odawara & Chula Vista Sister Cities 35th Anniversary



2016.11/18(Fri)~11/24(Thurs)



目次



01 ごあいさつ

市民訪問団団長 鈴木悌介●01

小田原市長 加藤憲一●02

小田原市議会議長 武松 忠●03

02 旅の記録

渡航期間●04

日程表●04

市民訪問団 旅の記録●05

03 旅の思い出

市民訪問団団員 旅の思い出●12

04 資料

共同宣言●26

プログラム一覧●28

国際親善委員会 役員名簿●29

小田原海外市民交流会 役員名簿●29

チュラビスタ小田原友の会 関係者名簿●30

小田原市市民訪問団 団員名簿●31

姉妹都市提携 35周年記念市民訪問団 記念挨拶

Teisuke Suzuki

市民訪問団団長 鈴木 悌介



歓迎レセプションにてちょうちんのプレゼント

チュラビスタ(=美しい景色)はその名のとおり、の素敵なまちでした。豊かな自然の景観は言うまでもなく、何よりも今回お世話になったチュラビスタの方々の笑顔と細やかな心遣いこそが、私にそう思わせた最大の謂れでした。

小田原市とチュラビスタ市の35年に亘る交流の間には、チュラビスタのまちは大きく変わったそうです。主要産業であった農

業に携わる人が徐々に減り、隣接する大都市サンディエゴに通勤する人が増えるという変化の中、ますますその活力と魅力を増しているように感じました。

チュラビスタ市長のマリー・サラスさん、チュラビスタ国際親善委員会会長のユージン・イーさんはじめ、委員会とチュラビスタの市役所の皆さまには本当にお世話になりました。メキシコ風の市庁舎玄関ロビーの特設会場での歓迎会や最終日の水族館でお別れパーティなど趣向を凝らしておもてなし、農業の先駆者として日系人だけでなく広く地元で敬愛されているサブロウ・ムラオカ氏の志を伝える場として建設中の市立小学校、市長の英断で市が運営を引き受けるオリンピックトレーニングセンターなど興味深い見学先の数々。そして、現地での三日間のそこかしこで目にすることができた、両市の市民の皆さんが新しい出会いを喜び合い、旧交を温め合う姿に、この事業の歴史と意義を深く確認することができました。

この素晴らしい事業をもっとたくさんのお田原の市民の皆さんに知っていただき、できれば参加していただきたい。そして、毎年行っている青年交流事業に加えて、より幅広い交流ができればなお素晴らしいと、思いを巡らせています。

そんな忘れられない機会を作ってくださった市民訪問団の皆さま、加藤小田原市長、武松市議会議長、そして、裏方として尽力してくださった事務局の皆さんにお礼を申し上げ、報告とさせていただきます。

姉妹都市提携 35 周年記念市民訪問団 記念祝辞

Kenichi Kato

小田原市長 加藤 憲一

小田原市とチュラビスタ市は、昭和 56 年 11 月 8 日の姉妹都市提携から 35 周年という記念すべき年を迎えました。長年にわたりチュラビスタ市との交流活動を支えてきてくださった小田原海外市民交流会の皆様、公募の市民訪問団の皆様、武松市議会議長と共に同市を訪問し、改めて両市の友好と親善を深めることができましたことを、心から感謝いたしますとともに、御参加いただきました皆様へ厚く御礼申し上げます。

私が市長に就任してからは、5 年ぶり 2 度目の公式訪問ということで、滞在期間中は様々な交流行事や新たな見学先を訪れる機会に恵まれました。9 月に小田原を訪問されたマリー・サラス市長との共同宣言への調印、チュラビスタの皆様による心温まる各種歓迎行事。その他にも、サンディエゴ郡初の日系アメリカ人学校「ムラオカ・サブロウ小学校」の建設地や、オリンピックトレーニングセンターの視察など、連日、様々な学びと出会いがあり、今後の交流のヒントを得ることができました。

一方、日々変化する時代の中で、姉妹都市提携当初の両市の状況からそれぞれが大きく変化と発展を遂げています。毎年行っている青少年の相互派遣事業に加え、小学校の子どもたちによるビデオレターの交換など、交流は様々な分野へと着実に広がりを見



チュラビスタ市役所にてサラス市長と共同宣言
(歓迎レセプションにて)

せています。現在行われている両市の交流がより深いものとなるよう、また今後さらに様々な分野における新しい交流が醸成されていくよう、その土台をしっかりと築いていくことができればと思っております。両市がお互いに学び合いながら、姉妹都市の関係がより充実したものとなり、その良好で有意義な関係が次世代につながっていくことを心より願っております。

最後になりましたが、市民訪問団に御尽力いただいた小田原海外市民交流会の皆様へ深く感謝申し上げますとともに、皆様の御健康と御発展を祈念いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。

姉妹都市提携 35周年記念市民訪問団 記念祝辞

Tadashi Takematsu
小田原市議会議長 武松 忠

小田原市とチュラビスタ市との姉妹都市提携 35 周年おめでとうございます。35 周年を記念する市民訪問団が、関係者の皆様のご尽力により成功のうちに実施されましたことに心からお祝い申し上げます。

今回、私にとって初めてのチュラビスタ市訪問でしたが、実際に行ってみますと、訪問する先々での熱烈な歓迎、あたたかい“おもてなし”など、長きに渡るチュラビスタの人々の歴史と思いに感動する日々でした。その中でも特に、さよならパーティーでの市民訪問団の皆様とチュラビスタの人々との抱擁、そして次の再会を誓う姿が印象に残っています。改めて両市の交流の絆を実感し、継続の大切さを感じた出来事でした。



「ムラオカ・サブロウ小学校」建設地にて

3 日間という短い滞在期間ではありましたが、市民訪問団の皆様とご一緒させていただき、チュラビスタ市の魅力をたくさん感じることができました。このような貴重な機会をいただきましたことを、深く感謝申し上げます。

このように長年に渡り交流が継続され、友好を深めることができおりますのも、小田原海外市民交流会の皆様をはじめ、これまで交流を支えてくださった多くの両市民の並々ならぬ努力と熱意の賜物であるものと、心から敬

意を表するとともに、深く感謝するものでございます。

この度の訪問を通して、これまで積み重ねてきた友好の重みと大切さを改めて実感し、誇りに思うとともに、35 年という節目を経て、今後もチュラビスタ市と小田原市民との友情がより一層深まっていくことを心から願っております。

終わりに、市民訪問団に参加された皆様と、関係者の皆様の益々のご発展とご健勝を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

旅の記録

■ 渡航期間

平成28年11月18日（金）から24日（木）まで＜7日間＞

■ 日程表

月日	日程	主な内容
11/18 （金）	小田原発 成田国際空港発	貸切バスにて移動 日本航空066便（約9時間45分）
	サンディエゴ着 チュラビスタ着	スーパーマーケット見学（ウォルマート） 昼食 貸切バスにて移動 消防署、警察署、市役所見学 歓迎レセプション（市役所） ＜チュラビスタ泊（ラ・キンタ・イン）＞
11/19 （土）	チュラビスタ滞在	チュラビスタ市内見学 ・ムラオカ・サブロウ小学校 ・オリピックトレーニングセンター見学 ・Novo Breweryツアー ・ショッピングモール見学（ラス・アメリカス・プレミウムアウトレット） 夕食会（Italianissimo Trattoria） ＜チュラビスタ泊（ラ・キンタ・イン）＞
11/20 （日）	チュラビスタ滞在	サンディエゴ市内見学 ・ポイントローマ見学 ・USSミッドウェイ博物館見学 ・バルボアパーク見学（パイプオルガンコンサート） ・日本庭園見学（三景園） さよならパーティー（Living Coast Discovery Center） ＜チュラビスタ泊（ラ・キンタ・イン）＞
11/21 （月）	チュラビスタ発 サンディエゴ発 ロサンゼルス発 サンフランシスコ着	貸切バスにて移動 アメリカン航空6031便 アメリカン航空6051便 サンフランシスコ半日市内観光 ・ゴールデンゲート・ブリッジ観光 ・スーパーマーケット見学（トレーダー・ジョーズ） ・フィッシャーマンズワーフ観光 ・夕食（Swiss Louis Italian & Seafood Restaurant） ＜サンフランシスコ泊（ホテル・ウィットコム）＞
11/22 （火）	サンフランシスコ滞在	終日自由行動 ★オプションツアー等 ＜サンフランシスコ泊（ホテル・ウィットコム）＞
11/23 （水）	サンフランシスコ発	日本航空001便（約11時間） ＜機内泊＞
11/24 （木）	羽田国際空港着 小田原着	貸切バスにて移動

Miku Nishiyama
事務局 西山 未来

■Day1 11月18日（金）■

小田原駅西口に集合。集合写真及び鈴木悌介団長のご挨拶後、大型貸切バスに乗車。小田原海外市民交流会役員、市職員らに見送られ、正午に出発。

バスは、大黒サービスエリアで途中休憩。新木場付近で直前に発生した事故渋滞により、空港到着時間が懸念される。一般道路を經由しながら、無事成田空港に到着。到着後、搭乗・出国手続きを慌しく済ませ、ほっと一息つけたのは、機内に着席したときだったように思われる。

ほぼ定刻通り、成田空港を出発。2012年12月からJAL成田ーサンディエゴ直行便の運航がスタートしたことで、これまでの移動手段より便利に。市民訪問団としてサンディエゴまでの直行便を利用するのは今回が初めて。機内食は夕食と朝食が提供され、朝食はJALと吉野家コラボの牛丼が登場。朝から牛丼を食べることに驚きながらも、完食。

一般的な空港と比べると、比較的コンパクトなサンディエゴ空港に到着し、入国審査へ。入国審査は、1人当たりの時間が長く、審査に時間を要した。現在所有するパスポート及び米国に1度入国経験のある者は、機械により入国が可能であった。

サンディエゴ空港に到着すると、チュラビスタ国際親善委員会（IFC）ユージン会長、チュラビスタ市職員のリリーさん、35周年を記念して小田原を訪問したブークリー夫妻、タケグチ夫妻がお出迎え。お天気の良い暖かい気候にも歓迎され、スーパー（wallmart）見学をはさんだ後、昼食会場へ。“人種のるつぼ”アメリカでの最初の料理は、ギリシャ料理。buffet形式で、日本ではなかなか味わえないギリシャ料理を堪能。昼食後は、予定通り、宿泊先である「ラ・キンタ・イン・サンディエゴ・チュラビスタ」にチェックイン後、午後のプログラムに向けて準備を済ませる。



ランチは、ギリシャ料理！！乾杯！！



■Day1 11月18日（金）■

チュラビスタでのプログラム1日目。

チュラビスタ消防署、警察署、市役所の順に見学。チュラビスタ消防署では、火災発生により、消防車両、消防職員は出動していた。待機中の消防署長に台所、勉強部屋、娯楽部屋、トレーニングルームをご案内いただき、消防署見学。頭脳も体力も求められる消防職員の現場であった。消防署見学を終えると、消防車両がタイミングよく戻り、記念撮影。

続いて、徒歩移動で、チュラビスタ警察署へ。警察署では、通報センター、観察室、警察車両を見学。アメリカでは、使用しなくなった携帯電話でも、通報することができるようだ。

警察署見学後、チュラビスタ市役所へ。チュラビスタ市役所では、マリー・サラス市長にご案内いただき、市長室、市議会会議室等を見学。

18時から市役所で歓迎レセプションが開会。総勢約100名の出席者が集う盛大なレセプション。両市長のあいさつ、調印式、市民訪問団への記念品贈呈、メキシコ料理、メキシコの踊り（ballet folilorico）の披露といった盛りだくさんの内容であった。

会場では、旧友との再会や新たな出会いがあり、数多くの方々に迎えられた温かい歓迎レセプションとなった。



チュラビスタ市役所前にて集合写真



歓迎レセプション



消防署・警察署・市役所見学

■ Day2 11月19日 (土) ■

チュラビスタでのプログラム2日目。

ムラオカ・サブロウ小学校へ。2016年6月1日に起工式を終え、まさに建設途中の小学校を見学。36の教室や図書館、日本庭園が2017年7月に完成予定である。サンディエゴ郡の中で日系の方の名前が付いた最初の学校となる。ムラオカファミリー歓迎のもと、訪問団全員にオリジナルTシャツとチョコレートのプレゼントをいただいた。

小学校の建設地を見学後、オリンピックトレーニングセンターへ。全米3箇所が存在するオリンピックトレーニングセンターがここチュラビスタ市にある。施設内では、パラリンピック金メダリストや陸上選手との遭遇、金メダルに触れる機会など特別な経験や出会いに恵まれた。昼食はカフェテリアスタイル。出来立てのハンバーガーが注文でき、好みに合わせたハンバーガーが楽しめる。昼食後はアーチェリー体験。腕力と集中力を要するアーチェリーは、なかなか的を射ることが難しい。施設見学後は、ビール工場”Novo Brewery”へ。1ヶ月半前にオープンしたチュラビスタで2箇所目の工場。工場内の説明を経て、3種類のビールを試飲。ビールで体が温まった後は、アウトレット、ラス・アメリカスへ。約1時間半の買い物時間を取り、再集合。買い物後は、準備のため、一旦ホテルに戻り、夕食会場”Italianissimo Trattoria”へ。

サラス市長を始めとしたチュラビスタ市関係者やIFC役員等と共に、イタリア料理のコースを堪能しながら、ゆっくり歓談。総勢約45名の夕食会は笑顔で溢れていた。



ムラオカ・サブロウ小学校



オリンピックトレーニングセンター



■ Day3 11月20日（日） ■

チュラビスタでのプログラム3日目。

この日は、チュラビスタから少し離れ、車で約30分のサンディエゴ市内観光へ。車内では、田中幸子監事から提案のあった「ふるさと」の練習。これまでの2日間、チュラビスタからの“おもてなし”に対する感謝の気持ちを込めて、さよならパーティーで合唱を披露することとなった。1番目の歌詞の「ふるさと」を「チュラビスタ」に、3番目の歌詞の「ふるさと」を「小田原」に変更し歌うことに。指揮者、大神さつきさんの美しい歌声と指導により、準備完了。

合唱の練習を終えると、退役軍人の地域に入り、戦死者の国立墓地が車窓に眺められた。現地ガイドのあけみさんの話では、すべて墓地の大きさ、色は同じため、遺族は墓地を探すのに一苦労するとのこと。だいたい位置に、献花して、帰ってくることもあるのだそう。確かに見渡す限り、同じ景色が続き、数え切れないほどの墓地が並んでいた。

1箇所目の見学地、ポイントローマに到着。ポイントローマはサンディエゴ全体、メキシコを見渡すことができる絶景スポット。

2箇所目の見学地、USSミッドウェイに到着。日本語音声ガイドを活用しながら、見学。第二次世界大戦や湾岸戦争等で使用され、横須賀にも停泊していた空母「ミッドウェイ」をそのまま博物館にした艦内を見学。全長296m、全幅34.4mの巨大空母に圧倒された団員も多かったようだ。

3箇所目の見学地、バルボアパークへ。14時から毎週日曜日に開催されている屋外パイプオルガンコンサートを鑑賞。広大な敷地に美しい音色が響き渡る。約30分間、鑑賞した後、日本庭園（Japanese Friendship Garden）へ。サンディエゴ市と横浜市が姉妹都市の証である日本庭園は、2015年に庭園整備を終え、美しい景観が広がっていた。

4箇所目の見学地、ペトコパークへ。2004年にオープンした野球場は、オープン前は治安が悪かったようだが、オープン後は、サンディエゴにビジネスと治安が戻り、今ではNo.1の野球場として定評が高い。訪問団のためだけに企画されたプライベートツアーでは、控え室、練習場、グラウンドなど普段なかなか入ることができない場所をご案内いただいた。野球好きには非常に贅沢なツアーとなった。

サンディエゴ市内の4箇所の見学を終え、一旦ホテルに戻り、さよならパーティーの準備へ。



■ Day3 11月20日 (日) ■

あっという間にチュラビスタでの3日間が過ぎ、Living Coast Discovery Centerにて「さよならパーティー」が開会。両市長、議長、両会長のあいさつがあり、イー会長からは、訪問団1人1人に親善証書と記念品の授与が行われた。

11月24日(木)のThanks Giving Day“感謝祭”と9月の小田原の受入に対する感謝の意から、Thanks Giving Dayの食事が提供された。料理はブッフェ形式で、ターキー、マッシュポテト、キャセロール、パンプキンケーキなど感謝祭ならではの食事を楽しむことができた。歓談中は、個別にプレゼント交換が繰り広げられ、サラス市長からは記念品と写真が団員全員に送られた。

パーティーの終盤には、小田原の訪問団からサプライズを実施。市長、議長、市民訪問団による合唱「ふるさと」が披露され、会場は大いに盛り上がった。

充実した3日間を振り返り、チュラビスタの素敵な方々の温かい“おもてなし”を振り返ると団員目から自然と涙が……。最後は感動と感謝の気持ちで包まれながら、会場を後に……。

3日間のチュラビスタでの思い出に浸りながらも、明日はチュラビスタを出発する日。数多くのプレゼントと荷造りに追われながら、準備を進める夜であった。



No.1 兎追いし かの山
小鮒釣りし かの川
夢は今も めぐりて
忘れがたき チュラビスタ

「ふるさと」

No.2 如何に在ます 父母
恙なしや 友がき
雨に風につけても
思い出ずる 故郷

No.3 志を はたして
いつの日にか 帰らん
山は青き 小田原
水は清き 小田原



■ Day4 11月21日（月） ■

チュラビスタ出発日。早朝7時に宿泊先を出発し、サンディエゴ空港へ。この日は、平日の朝ということもあり、道路渋滞が懸念されたが、予定通り空港に到着。国内線を2回乗り継ぎ、サンディエゴ空港からロサンゼルス空港、ロサンゼルス空港からサンフランシスコ空港へ空路移動を経て、サンフランシスコ空港に無事到着。予定より早く、到着したこともあり、サンフランシスコ市内観光を早く始めることができた。現地ガイドのイムラさんと合流し、ゴールデンゲートブリッジを目指す。現地ガイドのイムラさんは、なんと30周年市民訪問団時にお世話になったガイドさん。時折、ジョークを交えながらのトークに、バスの車内は終始笑い声で溢れていた。サンフランシスコはアメリカ全土でも例外のまちと熱弁するイムラさん。チュラビスタとは、風景、住宅、道路すべてが異なっている。空港から約20分バスを走らせ、サンフランシスコを代表する観光名所であるゴールデンゲートブリッジに到着し、記念撮影。

続いて、チャイナタウンを車窓で眺めながら、スーパー見学へ。カリフォルニア生まれのオシャレなスーパーであるTrader Joe'sでは、店舗のない日本でもファンがいるほどの人気ぶり。訪問団一行は、お土産にエコバックを大量購入。ここでは、サンフランシスコのご当地エコバックが手に入る。スーパー立ち寄り後は、フィッシャーマンズワーフへ。11月下旬ということもあり、クリスマスの装飾が施されていた。夕食は、豪華に1人蟹1杯を堪能。蟹を目の前にすると、一同は徐々に沈黙状態に…。蟹と格闘しながら、完食！満腹感に満たされながら、宿泊先ホテル・ウィットコムへ。かつて市庁舎として、使用されていたこともあるそう。歴史あるビクトリア様式の空間に囲まれた宿泊先に滞在し、サンフランシスコでの1日目は終了。

■ Day5 11月22日（火） ■

サンフランシスコでの滞在2日目。この日は1日フリープラン。訪問団の半数以上が、「ヨセミテ国立公園」へ。その他にも、ナパバレー、市内散策など思い思いにサンフランシスコでの1日を過ごした。



■Day6 11月23日（水）■

サンフランシスコ出発日。この日は集合時間の10時40分まで少々時間があったため、それぞれサンフランシスコでの最後の日を過ごす。ケーブルカー乗車、スーパー見学etc・・・。早朝は雨が降ったものの、出掛けるころにはお天気に。チェックアウトを済ませ、昼食会場へ。昼食はレストランでイタリア料理。昼食後、サンフランシスコ空港を目指し、出発。時間に余裕を持って、搭乗手続き。JL-001便にてサンフランシスコ空港から羽田空港まで直行便のフライト。行きより長く約11時間のフライトではあったが、7日間の充実した過密スケジュールからか、自然と睡魔が・・・。



昼食会場にて記念写真

■Day7 11月24日（木）■

長旅のフライトを終え、羽田空港到着。両替、宅配等の用事を済ませ、20時30分頃、羽田空港を出発。翌日から仕事や学校を控えた団員のことを考え、羽田空港からノンストップで小田原駅西口を目指すことに。この日、11月には珍しく関東地方で午前中積雪があったものの、到着時間は幸い夜であったため、道路影響等は全くなかった。ほぼ予定通り22時に小田原駅西口に到着すると、一足先に帰国した鈴木団長と知子さん、事務局の竹井副課長や団員のご家族がお出迎え。

～訪問団の皆様～

5泊7日の市民訪問団の旅はいかがでしたか。活動的で素敵な訪問団の皆様のおかげで、小田原市とチュラビスタ市35年目の記念すべき年を盛大に迎えることができました。

今後とも両市の交流のお力添えをよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

旅の思い出

市民訪問団にご参加いただいた皆さんからお寄せいただいた「旅の思い出」をご紹介します。

タイトル	氏名	ページ
「市民訪問団初参加の感激と感動」	井口 潔	13
「市民訪問団初参加の思い出」	井口 京子	14
「20年前と同じ風が流れています。」	大神 弘志	15
「笑顔のチュラビスタ」	大神 さつき	16
「心暖まる交流に感謝」	橘川 芳子	17
—35 Anniversary Celebrations—	小林 美絵	18
「大切にしたいご縁」	鈴木 知子	19
「チュラビスタでの気づき」	高橋 雅美	20
「絆、つながり、感謝」	田中 成美	20
「最高の1週間！」	田中 佑奈	21
「姉妹都市提携35周年 チュラビスタ市訪問を終えて思う事」	田中 正男	22
—Great Relationship—	田中 幸子	23
「貴重な経験と出会い」	西山 尚美	24
「チュラビスタを訪問して」	八巻 政宏	24
「USSミッドウェイに乗って」	若村 京子	25

(50音順／敬称略)



「市民訪問団初参加の感激と感動」

Kiyoshi Iguchi

井口 潔

国際交流が色々な形で進められている今日ですが、地元の小田原市がこのような活動を長年推進してこられたことを知らずにいたことは恥ずかしい限りです。

訪問先のチュラビスタ市では、市長さんをはじめ市当局や市民の方々から、想像を遥かに超える温かい歓迎を受けたことが先ず印象に残りました。複数回参加されている方々の再会を喜び合う抱擁も大変温かい光景でした。

見学先の消防署、警察署では、常に命の危険と隣り合わせの仕事の性格上、職場の仲間とは家族以上の深い絆で結ばれているとの説明を受けました。映画やTVドラマで見聞きする事柄が現実のこととして、改めて感激と尊敬の念を抱きました。日頃安心して生活できている私達ですが、小田原市でも同様の仕事に従事している人達がいればこそと感謝の気持ちが湧いてきました。



市長さんから記念のメダルをいただく



アトラクションの踊り手達と

見学先はこの他に、ムラオカ・サブロウ小学校、オリンピックトレーニングセンター、博覧会場跡地公園内の広大で美しい日本庭園等々、何処も思い出に残るものばかりでした。

この三日間、どの訪問先にも友好を支える数多くの市民の方々が、先回りしていたり同行してくれたり、安心して時を過ごすことが出来ました。

公式行事のサヨナラパーティーも、賑やかで楽しいものでした。お土産も沢山

頂戴して、本当に有難う御座いました。

さて、四日目からはサンフランシスコに移動してのこれも楽しみにしていた観光です。目玉のスポットである有名なゴールデンゲートブリッジ、フィッシャーマンズワーフ、チャイナタウン等のスポットも、個人的には2度目でしたが、

季節、時刻が異なりまるで初めてのことのよう感動を覚えました。

オプションで訪れたヨセミテ国立公園の雄大な大自然の絶景の数々に圧倒され、期待以上の収穫を得る事が出来ました。ガイドのムナカタ氏の軽妙な話術で往復のバスの中も楽しめました。アメリカの歴史のくぐりでは、年月日は勿論時刻までも入れた詳細さには全く感銘するばかりでした。

ビールフレンドとなったブークリーさん、遠い親戚が同姓だと沢山のお土産をくださったタケグチさん、お母様が日本人だと言っていたモリスさんの奥様は翌朝わざわざホテルにまでお土産を届けに来て下さいました。本当に胸が熱くなることばかりでした。どうか皆様お元気で！

チュラビスタ市と市民の皆様今後の益々のご発展を願ってやみません。



見学先のビール工場で
友好協会のセラートさん達と



ミッドウェー博物館で
タケグチさんご夫妻と



サヨナラパーティーで
ビールフレンドが成立

「市民訪問団初参加の思い出」

Kyoko Iguchi
井口 京子

小田原市に45年位在住しているにも拘らず、カリフォルニア州のチュラビスタ市と姉妹都市になっている事など全く知らずにおりました。たまたま今回参加させて頂くことになり、チュラビスタの方々とこんなに親密な関係になっている事を知り、びっくり致しました。

市内の警察や消防署等それにオリピックトレーニングセンター等一般のツアーではとても行かれない所へも行かせて頂き、それはそれはとても感激でした。

日本人の成功者の方々にもお目にかかれ、どんなに大変な思いをしてこられたかと、今の成功が本当に素晴らしい事だと敬服致しました。

又、サンフランシスコに移動してからは、ヨセミテの素晴らしい景観を満喫し最後にはケーブルカーにも乗る事が出来、充実した7日間でした。

小田原市とチュラビスタ市はもとより、広く日本とアメリカとの友好関係が益々発展していく事が大切だと感じました。お世話下さいました皆様、本当に有難う御座いました。



オリンピックトレーニングセンターの
表彰台で



ゴールデンゲートブリッジを背景に
記念撮影

「20年前と同じ風が流れています。」

Hiroshi Ogami
大神 弘志

1994年のNAFTA(北米自由貿易協定)発効で米加墨間の商流・物流が自由となり、国境の都市 Chula Vista には大手家電、事務機器等多くの日本メーカーが進出しました。米で部品集約、墨で製品化された後、米加に再輸入される流れです。

私は1995年、米国北西部 Seattle からこの地に拠点開設のため異動しました。ちょうど Atlanta オリンピック開催の前年で、オリンピックセンターが建設され新市街地は急速に拡大されていきました。日本人駐在員家族は約600人でした。

あれから20年が経過。(2003年に一度訪問したらしいが本人全く記憶にありません)この9月先方の訪問団から Chula Vista は大きく様変わりし当時の面影はないと聞いていました。

確かに、Otay Mesa 国境まで直線の I-125 が完成、I-5、805 に続く3本目の国道が整備されており Chula Vista からの通勤時間が1/3になっ

ていました。(米国の国道=Interstateは奇数が南北、偶数が東西に走る道です)今回訪れたムラオカ小学校建設現場の辺りは当時ただの砂漠だったと記憶しますが、大規模な道路・住宅地が開発整備されていました。

また、JAL直行便が就航されたSan Diego空港は当時からの駐車場拡張工事が継続され、まだまだ続くようです。(同空港は山・高層ビル群に囲まれ全米屈指の離着陸が難しい空港です)



チュラビスタ自宅前にて

みなと学園日本語補習校は当時児童数約400人、San Diego北部からChula

VistaのEastlake高校に移動、今回またSan Diego市内に移ったようです。小さいところでは、日本人駐在員の減少とともに、旧市街地にあった唯一の寿司屋、甘味屋が世代交代し客筋も中国、韓国人だと聞きました。

しかしながら、Californiaの広く青い空、ゆったりとした風は20年前のそれと微塵の変化もなく心地よく流れているということです。海外駐在16年のうちのたった2年間のChula Vistaでの生活でしたが、心洗われるこの地の大ファンでこれからも訪れる機会がありそうです。

最後に連日連夜の市内施設見学、会食とChula Vista側の大歓迎と皆さんの人柄に感激しました。お別れパーティーでの「ふるさと」合唱は大いに盛り上がりました。片隅のアイリッシュ・ハーブの音色も素敵でしたね。

「笑顔のチュラビスタ」

Satsuki Ogami

大神 さつき

ワクワクしながら降り立ったサンディエゴは想像した通りにリゾート地のような明るさに満ちていました。21年前にシアトルから移り住んだ時、同じアメリカでもこんなに印象が違うのかと思った開放感はそのままでした。

チュラビスタに入ると、街の雰囲気は以前と変わっていません。ちょっぴり田舎で時間がゆったり流れているようです。ですが、牧場が点在する荒地地だ



った場所が、道路が整備された宅地に姿を変えているのには驚きました。私たちが住んでいた頃も道路・商業施設・学校・公園など全て計画的に街が次々と造られていました。この発展が20年以上も続いている事実に感銘を受けました。

街が発展するためには、そこに暮らす人々の幸せが不可欠です。インフラが整備されても、暮らしやすさには人間関係が重要です。メキシコからの移民が多いためかチュラビスタの人々は、外国人に親切で寛容だと感じます。訪問団でたくさんの笑顔に出会えました。この明るい笑顔があったこそその発展だと思います。

小田原もチュラビスタも人と人との繋がりを大切に、ともに友好を深め、そして発展していくことを願います。

「心暖まる交流に感謝」

Yoshiko Kitsukawa
橋川 芳子

35周年記念の年にチュラビスタ訪問が出来、なつかしい方々にお目にかかれ素晴らしい“おもてなし”をして下さったことに感謝する旅でした。

先ず長年、おつきあいさせて頂いたあい子ヒルマンさん、とし子モリスさんがホテルを訪ねて下さり、久しぶりに昔話が出来、年上のお二人が生き生き生活されている姿に感動したひと時でした。

初日、市庁舎ホールで行われたウェルカムパーティーでも、以前来原された市長様や、市民の方々が出席され、覚えていて下さって、なつかしく、交流出来ました。ホールは新しくなり議会場も広くなり、モダンな感じでチュラビスタの発展の証のように思いました。(前はみられませんでしたので)

2日目はロイ・ムラオカさんが作られている小学校建設現場を見学。広大な大地の一角に二棟の骨格が・・・建設に当って故ムラオカ・サブロウさんの苦労に苦労を重ねながら成功された中、“和の心”を大切にされていたとの事、その心を繋いでゆきたいと説明があり校舎の中庭に日本庭園を造るといっておられました。ロイ・ムラオカさんのパワフルな姿に接しほっとしたり、いつまでも元気でいて頂きたいと願ったりしました。完成が楽しみです。

次の見学地オリンピック・トレーニングセンターでは金メダリストの方に隅々まで説明して頂き、「金メダル」を持たせて頂いたり写真を撮らせて頂いた

りとてもフレンドリーな方にお会い出来感激でした。滞在中パーティーや懇切丁寧な市内見学、サンディエゴでのパイプオルガンコンサート等、綿密な計画の下、今までにない歓迎を受けました。お若い市長様はじめ IFC の役員の方々のお心遣いに心から感謝致します。これから又、新しい絆で両市の友好が深まってゆくことを確信しました。

体調不良での参加で市長様や会長様、訪問団の皆様にもいろいろご心配、ご配慮を頂き無事帰国出来ましたこと心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



ウェルカムパーティー



お元気なロイ・ムラオカさんと



ムラオカ・サブロウ小学校建設現場



デビットのファミリーと



金メダリストと

— 35 Anniversary Celebrations —

Mie Kobayashi
小林 美絵

11月18日金曜日 10:00am、長時間の飛行を終え、サンディエゴに着き安堵した私達に注がれたのは、夏を思わせる様な眩しい太陽でした。緊張から一気に開放され、期待感で胸がいっぱいになりました。



チュラビスタ市では、毎夜盛大な歓迎セレモニー、パーティーが催され、感動の嵐でした。初日は、格式高い市庁舎ホールで、マリー・サラス市長そして加藤市長のスピーチに始まり、ダンスパフォーマンスもとても素敵でした。

2日目は、イタリアンレストランで心暖まる皆様との交流会、そしてラストは、なんと水族館のホールでさよならパーティーと、3日間を通してたくさんのチュラビスタ市の皆様に囲まれ、涙々の感極まる時間でした。

35年という長い年月の中で大切に培われてきた両市民の方々の深い絆の結びつきを、ひしひしと感じました。この絆が将来引き継がれ、交流の輪が広がりますように、そして皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。楽しく参加させて頂けたことに、感謝いたします。

「大切にしたいご縁」

Tomoko Suzuki
鈴木 知子

ご一緒させていただいた市民訪問団の皆さまが気持ちのいい方ばかりで、とても楽しい旅になりました。夫からチュラビスタと一緒にいかないか？と問われ、旅好きの私は二つ返事で行きますと答えました。今回の旅の本当の意味もよく知らずに。

行ってみてびっくりでした。チュラビスタの市長さん、友好協会の会長さんはじめ皆さんが本当に親身になってお世話してくださり、この事業が両方の市にとって、とても大切なものだとは改めて知りました。また、何度も参加されている方がこの事業で仲良しになった昔からのお友達との再会を涙を流しながら喜ばれている姿を拝見し、思わずもらい泣きしてしまいました。心温まる旅でございました。

加藤市長さま、武松議長さまとご一緒させていただけたこともとても光栄でした。小田原をさらに素敵なまちにするために、一市民として何かできることはないかと考えるきっかけになりました。

こんな素敵な企画の実現には大変なご尽力があったことと、事務局はじめ関係者の皆さまに改めてお礼を申し上げます。



「チュラビスタでの気づき」

Masami Takahashi

高橋 雅美

市民訪問団として参加させていただき、今までの人生の中で出会った事が無い体験が出来たのは幸せだと思いました。

海外の1都市の市長室や議会室を見たり、パラリンピックの車椅子テニスで何度もメダルに輝いている人との握手、握手した人のメダルではなく、陸上で出場した人の金メダルを手にした時は言葉がでないほどの感動でした。メダルを振ると音がするのにもまたびっくり。持ってみないとわからなかったことです。メダルの色によっても音が違うのも説明を受けると納得でした。また、来年開校する日本人の名前が付いた小学校の建設途中の所も見学しました。日本からアメリカに渡り、農業で名を残すまでの努力は、並大抵ではなかったと想像します。私自身、まだまだ努力が足りないと思感させられました。チュラビスタの人々の暖かいおもてなしにはびっくりする3日間でした。35年間の両国の色々な皆様の思いの積み重ねが今年の素敵なおもてなしに繋がってきたことと思います。言葉はよくわからなくても心や思いは通じ合うことができるということもわかりました。



このような機会を与えてくれたすべての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

「絆、つながり、感謝」

Narumi Tanaka

田中 成美

「チュラビスタと一緒にいこうよ!」という娘の一言で実現した、今回のアメリカ旅行。個人旅行では、経験できないことばかりでした。

建設中のムラオカサブロウ小学校の見学では、個人の寄付で公立小学校を建設していることに驚きました。また、「中庭を日本庭園にすること、授業プログラムに日本文化の体験を組み込むことを考えている」という話に、小田原のかま

ぼこ・ちょうちん・寄木作りを思い浮かべ、自分がボランティアとして参加するという想像を膨らませていました。

オリンピックトレーニングセンターでは、リオパラリンピックに出場した陸上選手の伴走者で、金メダリストの方にメダルを首にかけていただきました。その金メダルの中には鈴が入っていて、振ると「リン・

リン」と音がしました。今まで見たことも、触れたこともなかったため、とても貴重な体験をさせていただきました。彼が東京オリンピックに出場した際には、応援に行きたいと思います。

チュラビスタの大勢の人たちの心温まる「おもてなし」に毎日感謝の気持ちでいっぱい旅行でした。旅行に参加した皆様や、チュラビスタの方と素晴らしい時間を共有できたことに感謝しています。



「最高の1週間！」

Yuna Tanaka
田中 佑奈



母と一緒に行く初めての海外旅行は、派遣青年として姉妹都市交流に参加した2014年以來、2年ぶりに訪れるチュラビスタでした。大学生活も残り少なくなり、「行くチャンスは今しかない！」と、思いきって参加しましたが本当に素晴らしい経験をする事ができました。

チュラビスタ滞在中では、オリンピックトレーニングセンターへの訪問が印象に残っています。2年前にも訪れましたが、アーチェリー専用の練習場など、新たな建物や練習用のコースを見ることができました。また、メダリストの方が説明をしてくださり、アスリート目線で見学できたのでとても勉強になりました。アーチェリーの体験をすることができましたが弓を支える手が震えてしまい、なかなか上手く射ることができませんでした。将来オリンピックに出場することを夢見てトレーニングに励んでいた子どもたちを、東京オリンピックで見ることができたらいいなと思います。

サンフランシスコ滞在中では、ヨセミテ国立公園が印象に残っています。崖や滝、森林を見ることができ、自然のパワーを強く感じることができました。また、私が想像していた以上に広大な土地で、日本とは違うアメリカの国土の広さも感じることができました。片道 4 時間もかかる遠く離れた場所で、木の伐採のために 30 分以上も道を通ることができないなど、アメリカならではの問題に直面したのも良い思い出です。

2 年前に派遣青年として姉妹都市交流に参加したときのペアである Tiffany との再会は本当に嬉しかったです。チュラビスタの皆さんとの交流も、なかなか経験することのできない貴重な時間でした。5 年後も参加することができたら……。と思います。

「姉妹都市提携 35 周年 チュラビスタ市訪問を終えて思う事」

Masao Tanaka
田中 正男

今回は 35 周年という節目の訪問。家内と共に参加いたしました。

この訪問で感動した事がたくさんあります……。

35 年と言う長きに渡り小田原市、チュラビスタ市との交流事業が脈々と続いてきたことは、先人のご苦勞のたまものだと思います。

「絆」「義理と人情」古い言葉で演歌の歌詞のようですが、今回、初めての訪問でアメリカの方、特に日系の方にこの言葉が当てはまる事がたくさんあり、何回も訪問していたような錯覚におちいりました。

ロイ・ムラオカさんの「戦争は人類最大の惨事である。おろかな人々は罪を犯し、そして不幸になる。それぞれの国を理解すれば、決して起こることはないだろう」。この精神を身をもって生かし、私財をなげ打っての教育施設の建設に感動しました。お父様の強制収容所の体験がつぎの代に「絆」となって生きる、この心が見えたような気がしました。

小田原訪問団全員で、お礼の気持ちをこめてアメリカで歌った「故郷」一山は清き小田原、水は清き小田原一の合唱について涙ぐんでしまいました、われわれを



心から歓迎して下さったチュラビスタ市のみなさまに心から感謝いたします。

チュラビスタ市は全米でも 1,2 を競う住みたい町との事。益々の発展を祈ります。両市の交換交流の輪が益々広がることを期待し、今回の訪問立案にかかわって下さった関係各位に感謝申し上げます。

— Great Relationship —

Sachiko Tanaka

田中 幸子



姉妹都市 35 周年記念市民訪問団の“さよならパーティー”は両市の皆様がデイスカバリーセンターに集い和やかに盛大に開会されました。ユージン・イー国際親善委員会々長は「小田原、チュラビスタ両市は **Great** な友好関係である」と高らかに、にこやかにご挨拶されました。

チュラビスタ滞在 3 日間、市長はじめ、皆様から心あたたまる、素晴らしいおもてなしをいただき、国際交流の素晴らしさ、醍醐味を堪能する事が出来ました。

私は、6 回目の訪問。なつかしい友とのお目もじ。

人と人 People - to - People

おだやかな、あたたかな時の流れに感激いたしました。

ユージンイー、ロイムラオカ、愛子ヒルマン、とし子モリス、ダボアダファミリー、アヤイバラ、エルバメラー、ブークリー夫妻、タケグチファミリー、モリスファミリー、ニツパアカナ、大勢のみなさま。友の会テリートーマス会長は体調をくずされ、お心をお届けいただきました。

会場にお集まりの皆様と“またお会いしましょう”・・・。お礼とお別れのご挨拶をしました。

チュラビスタの皆様ありがとう。楽しい、たのしい 3 日間でした。

1981 年以來、35 年にわたり、小田原海外市民交流会にお力添え下さった先人のご苦勞に感謝し、太平洋をはるか 9000Km 隔てた、小田原、チュラビスタ両市の友情の絆が、さらにさらに続くことをお祈りし、この度の訪問の旅にかかわって下さった皆様に心から感謝申し上げます。

Thank you so much to all of friends. See you again !

「貴重な経験と出会い」

Naomi Nishiyama

西山 尚美

11月18日（金）小田原市民訪問団として意気揚々とアメリカ・チュラビスタ市に向かいました。初日の歓迎レセプションから、チュラビスタ滞在最終日のさよならパーティー、チュラビスタ出発日まで、想像をはるかに越えるプレゼントの嵐とおもてなし。



普通の旅行では行くことのできない、消防署、警察署、市役所、ムラオカ・サブロウ小学校の見学。砂漠地帯のような風景、素敵な建造物。たくさんのチュラビスタの方々にお会いして、心がどんどんアメリカンになっていきました。心だけでなく、旅の途中からは胃袋も大きく成長。ハンバーガーもぺろりと完食。小田原市とチュラビスタ市の35周年を記念し、数多くの貴重な体験ができました。

このチュラビスタの思い出と出会いを胸に、次回まで体を鍛えて、さあ頑張ります！チュラビスタの皆様ありがとうございました。素敵な小田原市民訪問団の皆様とご一緒できたことに感謝します。とっても素敵な交流、次回に続くです。

「チュラビスタを訪問して」

Masahiro Yamaki

八巻 政宏



今回、初めてチュラビスタを訪問する機会に恵まれました。地理的にメキシコが近いので、実際、どんな所だろうかと思いつつ興味津々でした。

温かい歓迎に迎えられ、サンディエゴの Japanese Friendship Garden (3.11の震災時に着付教室 (チャリティイベント) を開催し日本を支援してくれたことなど伺い、感銘を受けました。印象に残った中で現地小学校建設について、簡単に触れておきたいと思います。

今回、初めてチュラビスタを訪問する機会に恵まれました。地理的にメキシコが近いので、実際、どんな所だろうかと思いつつ興味津々でした。温かい歓迎に迎えられ、サンディエゴの Japanese Friendship Garden (3.11の震災時に着付教室 (チャリティイベント) を開催し日本を支援してくれたことなど伺い、感銘を受けました。印象に残った中で現地小学校建設について、簡単に触れておきたいと思います。

村岡サブロウ氏の子孫の方々に来年度開校予定の小学校建設用地を訪問しました。同氏は1915年に渡米し、農業／実業家として成功し米国の日本社会に貢献された人物です。広大な土地の一角に建設工事中であり、現在遠くの学校に子供を通わせている地元の住民は期待しているとのことでした。教育に対する社会貢献活動に、日本人が尽力されている事、大変感銘を受けました。是非、毎年国際交流で現地へ行かれる若い学生諸君に足を運んでほしいと思います。また、市民レベルでの交流が一層深まるよう、個人的に日本の本（絵本）等を現地小学校へ送ってみたいものです。

最後に、今回の訪問団の団長鈴木様，参加された皆様，事務局運営に携わった西山様には大変お世話になり厚く御礼申し上げます。

参考：the San Diego Union Tribune 2016/5/9

<http://www.sandiegouniontribune.com/news/education/sdut-school-named-after-influential-japanese-american-2016may09-story.html>

「USS ミッドウェイに乗って」

Kyoko Wakamura
若村 京子

日本に戦艦大和なるものがあつたが～

USS ミッドウェイ博物館の巨大な船舶。甲板には幾つもの戦闘機があり、操縦室の機械の多いこと一瞬にしてこの膨大な機械を操作する。

敏速に動く訓練も日々行われ、考える暇もない位の速さで、体と、脳が反応して行動するのだろう。戦闘機に乗ってから指令を受け誤って仲間の戦闘機を打ち落としたこともあるとの事。あまりの部屋の数と、大きさに行くべき所へ指令どおり早く行かれたのだろうか？膨大な数をこなす洗濯室。衣類の片付けにも重ねる順序があり、急な指令にすぐ着替えの出来るように置かれている。つかの間の癒しの時間は食事、勤務明けの仲間との団欒とのこと。機長室には丸テーブルが、ゆったり置かれている。昼食は、大きなハンバーガーをデッキでかぶりついた。歩き回ったので美味しい。かもめが狙っていた。

なんと平和なことだろう。ずっとずっとこの平和が続くように願いながら博物館を後にした。



資料編

■ 共同宣言 In Odawara

9月25日(日)35周年記念公式パーティーでの共同宣言



■共同宣言 In Chula Vista

11月18日(金)歓迎レセプションでの共同宣言



■プログラム一覧



**歓迎パーティー
次第**

35th Sister City Anniversary
小田原市 歓迎レセプションプログラム

Welcome
開会、歓迎のあいさつ (敬称略)
by Emcee Monica Birnbaum モニカ・バーンバウム 司会

Mayor Mary Casillas Salas マリー・サラス 市長
Mayor Kenichi Kato ケンイチ・カトウ 市長

Signing Ceremony
調印式

OdaWARA Delegation Introduction
小田原市 公式訪問団の紹介 (敬称略)

Mayor Kenichi Kato ケンイチ・カトウ 市長
Chairman Tadashi Takematsu タダシ・タケマツ 議長
Takeshi Saito タケシ・サイトウ
Teisuke Suzuki テイスケ・スズキ 団長
Tomoko Suzuki トモコ・スズキ
Hiroshi Ogami ヒロシ・オガミ 副団長
Satsuki Ogami サツキ・オガミ
Yoshiko Kikusakawa ヨシコ・キクサカワ
Mie Kobayashi ミエ・コバヤシ
Sachiko Tanaka サチコ・タナカ
Masao Tanaka マサオ・タナカ
Yuna Tanaka ユナ・タナカ
Narumi Tanaka ナルミ・タナカ
Kiyoshi Iguchi キヨシ・イグチ
Kyoko Iguchi キョウコ・イグチ
Masami Takahashi マサミ・タカハシ
Masahiro Yamaki マサヒロ・ヤマキ
Kyoko Wakamura キョウコ・ワカムラ
Naomi Nishiyama ナオミ・ニシヤマ
Miku Nishiyama ミク・ニシヤマ

Reception レセプション
Performances by 歓迎のパフォーマンス
Ballet Folklorico TI-PAI
バレフォルクオリコTI-PAI
Paola Duarte & Yovani Aguilar
パオラ・デュアルタ & ヨヴァニ・アギラル



**さよならパーティー
次第**

Farewell Thanksgiving Dinner

PROGRAM
Mayor Mary Casillas Salas
Mayor Kenichi Kato
Chairman Tadashi Takematsu
Chairman Eugene Yee, IFC
Chairman Teisuke Suzuki, OIFA

MENU

Turkey Breast and Honey Glazed Ham
Mixed Green Salad
Roasted Garlic Mashed Potatoes
Homemade Turkey Cravy
Fresh Cornbread Stuffing Casserole
Roasted Baby Vegetable Medley
Cranberry-Orange Sauce
Fresh Baked Dinner Rolls & Butter

Desserts
Pumpkin and Apple Pie

ABOUT OUR EVENT LOCATION:

The Living Coast Discovery Center is a natural treasure on San Diego Bay. It was originally founded by the City of Chula Vista in 1987 and later transitioned to a nonprofit organization as the Living Coast Discovery Center in 2012. This nonprofit zoo and aquarium is uniquely situated on the Sweetwater Marsh National Wildlife Refuge, offering visitors an ideal setting in which to explore the amazing animals and plants that call our coastal region home. With a diverse collection of animal ambassadors and hands-on, interactive exhibits, the Discovery Center inspires curiosity and exploration of the living earth in guests of all ages.

■国際親善委員会 (International Friendship Commission) 役員名簿

Title (役職)	Name	Note (備考)
Chair (会長)	Eugene Yee	
	Nimpa Akana	
	Eric Banatao	
	Sally Boucree	
	Miguel Duran	
	Patricia Fernandez	
	Ruth Serrato	
	Hector Vanegas	
Secretary (書記)	Lilia Cesena	チュラビスタ市職員

■小田原海外市民交流会 (Odawara International Friendship Association) 役員名簿

役職	氏名	Note (備考)
会長	鈴木 悌介	
副会長	町田 達哉	
副会長	熊澤 均	
副会長	大神 弘志	
会計	ベロー 真奈美	
監事	松井 孝成	
監事	鳥越 大地	
幹事	村山 寛明	
幹事	中村 満	
幹事	西村 理沙	
幹事	小野 力	

■チュラビスタ小田原友の会 (CV Friends of Odawara) 関係者名簿

Chula Vista Odawara Sister Cities Association 2016-2017
CV Friends of Odawara Governing Board 35th Anniversary



Sister Cities Tomodachi since 1981



Founding President: Prof. Teresa "Terry" Thomas

Vice-President of Administration Patti Morris

Honorary Chairman and Treasurer: Roy Muraoka -San

Assistant Treasurer - Kimie Kaneyuki

Aiko Hillman and Ileana Rubio – Co-Secretaries

Lilia Cesena: Liaison to Mayor Mary Casillas Salas

Pie and Sol Roque: Liaison to the Chula Vista Chamber of Commerce

Mayor Shirley Horton: Friends of Odawara to Odawara International Friendship Association (OIFA)

Erin Morris: Friends of Odawara Board Liaison Univ. at Tokyo, Japan

Eugene Yee - Chairman, International Friendship Commission

Soledad Boucree- Liaison to the I.F.C.

Harold Kuhn: Vice-President-Tomodachi Sunshine

Jerry Thomas: Vice-President- Public Relations

Toshiko Hasegawa: Vice -President – Educational Programs & Resources

Barbara Worth: Vice-President – Membership

Past International Understanding Teachers and ALSO Young Professional or Youth Ambassadors - Cristina Zamora / Erin Morris – Online Hospitality WEB FB & Social All Volunteers from Japan/USA

Hospitality Board Members

Akiko Bourland, Chieko Campbell, Michiko Delaney, Eriko Shoji, Chieko McCourt, Joe Correia, Mary Ann Sowards, Steve Wood, Rita Legaspi. Fumiko Hamilton, Leonard Gutzman, Terru Farrens, Leonard Billings, Lesley Fernandez, Sharon Larson, Aileen Price, Yoshiko Monji, Nancy Taboada, Mia McClellan.

Honorable Consul General of Japan in San Diego Kate Leonard

■小田原市市民訪問団 団員名簿

No.	訪問団役職	氏名	ふりがな	備考
1		井口 潔	いぐち きよし	
2		井口 京子	いぐち きょうこ	
3	副団長	大神 弘志	おおがみ ひろし	OIFA 副会長
4		大神 さつき	おおがみ さつき	
5		橘川 芳子	きつかわ よしこ	
6		小林 美絵	こばやし みえ	
7	団長	鈴木 悌介	すずき ていすけ	OIFA 会長
8		鈴木 知子	すずき ともこ	
9		高橋 雅美	たかはし まさみ	
10		田中 成美	たなか なるみ	
11		田中 佑奈	たなか ゆな	
12		田中 正男	たなか まさお	
13	監事	田中 幸子	たなか さちこ	
14		西山 尚美	にしやま なおみ	
15		八巻 政宏	やまき まさひろ	
16		若村 京子	わかむら きょうこ	
17		西山 未来	にしやま みく	OIFA 事務局

(50 音順／敬称略)



SISTER CITIES-ODAWARA & CHULA VISTA 35th Anniversary



**小田原市&チュラピスタ市 姉妹都市提携 35 周年記念
市民訪問団 旅の思い出**

2017（平成 29）年 3 月 発行

発行者 小田原海外市民交流会

会長 鈴木 悌介

（事務局）

小田原市文化部文化政策課
神奈川県小田原市荻窪 300 番地

企画編集 小田原海外市民交流会

印刷所 有限会社サンヨー
